

令和元年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分： 図書館活動における功績
2. 対象者： 一橋大学附属図書館・社会科学古典資料センター 保存修復概算事業ワーキンググループ
3. 件名： 「西洋古典資料保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の取り組み
4. 結果： 採択
5. 理由： 本件は、一橋大学附属図書館（以下、「図書館」という。）が、同社会科学古典資料センター（以下、「センター」という。）と連携して実施した、文部科学省共通政策課題「西洋古典資料保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」における大学図書館の人材育成とネットワーク形成の取り組みである。

図書館とセンターでは、従来から連携して西洋社会科学古典資料講習会、西洋古典資料保存講習会を行ってきたが、さらに実務に即した研修を実施し全国的に貢献することを目的とした本事業を構想・立案し、平成28年度から3年間にわたり、実務研修（国立大学ほか、私立大学、国立国会図書館を含む10機関9名が受講）、保存状況調査、ネットワーク形成（文化的・学術的資料の保存をテーマとしたシンポジウム開催など）を実施した。また、現在及び今後の展開として、「ほぞんネット」（図書館、センター及び実務研修修了者による古典資料保存に関するネットワーク）、「西洋貴重書保存インデックス」（国内の貴重書の保存状況情報の集成）が計画・着手されている。

同事業の着想、実行のための予算獲得に至る積極的行動力は高く評価できるものであり、また事業推進においてセンターという専門家集団との効果的連携により多大な成果をあげたことは、他の大学図書館の各種事業推進の範となるものである。その活動成果は、資料保存という大学図書館の伝統的基本業務に関する中核的人材を各地の核となる大学図書館に養成するという形で結実しており、さらに3年間という事業の時限に留まらず、「ほぞんネット」等による専門的知見の共有などの形で全国的、継続的な波及効果も期待できる。

以上のことから、本件は図書館活動において顕著な意義を有するものと認められ、「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第4号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。